

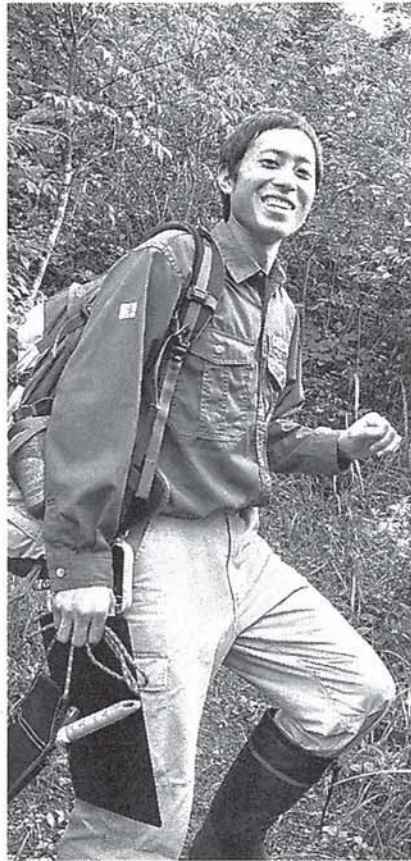
進学特集 ⑧実践的に学ぶ

仕事に直結 専門学校へ

自然相手に働くすべ習得

東京環境工科専門学校

JR甲府駅から電車と車で1時間。雲間から姿を見せる富士山を背に、棚田が広がる集落を抜け、林道を抜ける。小さな池のほとりの開けた場所にとどり着く。東京環境工科専門学校(東京都渋谷区)の実習場、増穂ふるさと自然塾(山梨県富士川町)だ。自然環境保全学科の指原孝治さん(27)は、作業着に身を包み、山道のそばに生える草木の葉を手に取り、一枚一枚眺めていた。



道に生える草木の葉を手に取りながら、山道を奥へ進む指原孝治さん(山梨県富士川町)

専門は植物分類。入学したころには数えるほどしか言えなかった植物の名前も、今ではすらすらと口をついて出る。1年半で、細かな部分にも目が行くようになった。「毛や切れ込みなど、葉っぱ一枚にも個性があるんです」大分県で、「教員一家」の家庭に生まれた。高校を卒業

し、地元大学の教育学部に進学、発達教育を学んだ。就職したくなかったが、「お金も無いし、将来の肥やしになれば」と、地元の出版社に就職した。タウン誌の営業で県内を駆け回った。朝早く出勤し、日付が変わるころに帰宅するという毎日。忙しいが、楽しくて仕方なかった。あっという間に3年半がたち、25歳になっていた。

ある日、ふと立ち止まった。気づけば何カ月も家族の顔も見えていない。「この仕事を一生は続けられない」。そんな時、偶然インターネットで現在の学校に出会った。

もともと、自然が好きだった。幼いころ、家の近くの田んぼや小川で、トンボやホタルを追った。大学生のころに訪れた鹿児島県のトカラ列島・宝島の真っ青な海は、今でも目に焼き付いている。「真

剣に自然について学んでみよう」。学校を知って1週間後には、上司に辞意を伝えていた。春になり、単身上京した。

生物多様性に動物・植物分類。学校では環境に関する知識が幅広く学べる。環境法規など学問もあるが、すべては実地で働く「フィールドワーカー」に必要だ。「自然を相手に働くすべを学ぶのに、これ以上の学校はないと思う」

学校での行動は、何をすることも班活動。自然の中では、人同士が協力しなければ行動できない。同じ志を持つ級友はみな意識が高い。

将来は地元に貢献できる仕事をしたい。今の日本は地方がそれぞれの魅力を生かし切れていない、と感じている。人と自然とが共生できるような仕事を、探すつもりだ。

(伊藤弘毅)

同じ仕事を目指す仲間と学ぶ。それが専門学校の魅力の一つだ。資格取得を重視する専門学校も多く、「就職に有利」と人気が高まっている。体の不自由な患者と向き合い、あるいは草木の生い茂る山中を歩き、実習を重ねて夢を追いかける2人の学生を紹介する。